



True

Pop-Up Toaster

デロンギ
トゥルー
ポップアップトースター

型式番号

家庭用

TTP220J

※ 本体の型式番号「TTP220J」の後に続くハイフン
およびアルファベットは、色番号を表すものです。

取扱説明書

このたびは、デロンギ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しく安全にご使用いただくため必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は保証書（裏表紙）とともに大切に保管してください。

保証書付



目次

安全上のご注意.....	2
各部の名称とはたらき	4
初めて使うときは	
一まずは空焼きしましょうー	4
パンを焼く前の準備.....	5
焼けるパンのサイズについて	5
パンの焼きかた.....	6
クロワッサンや丸いパンを 温める	8
お手入れ	9
故障かな?.....	10
仕様.....	10
アフターサービス.....	11
保証書	裏表紙

● 本書に記載の内容は改善のため
予告なく変更する場合があります。

安全上のご注意 <必ずお守りください>

- ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
- ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するものです。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を「警告」「注意」の2つに分け、説明しています。



警告

誤った取扱いをしたとき、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの



注意

誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく可能性のあるもの

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)



禁止

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



指示

この絵表示は、必ずしていただく「強制」内容です。



警告

定格 15A (100V) のコンセントを本製品だけ単独で使用する

(火災の原因)

- 延長コード、テーブルタップ、ソケットなどは使用しない。

電源プラグは根元までしっかりと差し込む

(火災の原因)



指示

電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く

(火災の原因)

異常が生じた場合は、使用を中止する

(火災・感電の原因)

- ※ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または当社サービスセンターに連絡してください。

電源プラグ／電源コードを破損させない

(火災・感電の原因)



禁止

- 上に重たいものを載せない。
- 本機の下敷きにしない。
- 無理に引っ張らない。
- 電源を抜くときはコードを引っ張らない。
- 束ねたまま使用しない。
- 本機高温部に近づけない。

変形・破損している電源プラグ／電源コードは絶対に使わない

(火災・感電の原因)

- 取り付けの悪いコンセントは使用しない。
- ※ 電源プラグ／電源コードが破損・変形しているときは直ちに使用を中止し、販売店または当社サービスセンターに交換を依頼してください。

お子様だけで使わせない、乳幼児の手の届くところで使わない

(やけど・けが・火災の原因)



禁止

カーテン、可燃物などの近くまたはその下で使用しない

(火災の原因)

金属製のもの(ナイフ、フォークなど)をスロットに入れない

(やけど・感電の原因)

- パン以外のものをスロットに挿入しない。
- ※ パンがスロットに引っかかった場合、5 ページ(パンが引っかかったら)の指示に従い、取り除いてください。

本体／電源コード／電源プラグを水に浸したり、水洗いしたりしない

(感電の原因)



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

(感電の原因)



分解禁止

本製品を分解したり、改造したりしない

(火災・感電の原因)

⚠ 注意



指示

平らな安定した場所に置く

(火災・けがの原因)

- 不安定なところ、熱に弱いテーブルや敷物などの上で使用しない。

本体のお手入れは電源プラグをコンセントから抜き、各部が冷えてから行う

(火災の原因)



電源プラグ
を抜く

使用後は必ず電源を切り電源プラグをコンセントから抜く

(火災の原因)



禁止

水のかかるところや火気の近くでは使用しない

(火災・感電の原因)

他の用途で使用しない

(火災・感電・やけどの原因)

- ※ 本製品はパン焼き機（トースター）です。

指定された以外のパンをスロットに入れない

(火災の原因)

- 5 ページ（焼けるパンのサイズについて）で指定された大きさのパンのみを使用してください。パンがスロット内に引っかかる恐れがあります。
- ※ パンがスロットに引っかった場合、5 ページ（パンが引っかったら）の指示に従い、取り除いてください。



禁止

バターやジャムなどを塗ったパン、ラップやホイルなどで包まれたパンを焼かない

(火災の原因)

使用中は本体から離れない

(火災の原因)

- パンは燃える可能性があるため、使用中は本体から目を離さない。
- ※ 万一、10 分以上経っても自動的にレバーが上がらない場合は、故障と考えられますので、キャンセルボタンを押して手動で電源を切り、当社サービスセンターにお問い合わせください。

使用中にスロットをほこりよけカバーなどでふさがない

(火災・感電・やけどの原因)



接触禁止

使用中および使用後しばらくは本体上部など高温部に触れない

(やけどの原因)

- 使用中、使用後しばらくは、ほこりよけカバーをかぶせない
- ※ スロットにパンが引っかった場合、5 ページ（パンが引っかったら）の指示に従い、取り除いてください。
- ※ 移動の際には電源プラグを抜き、本体が十分に冷めてから移動してください。

各部の名称とはたらき

ラックボタン

ラックボタンを押すと、
温めラックが上がります。

温めラック

スロットに入らないパンをラックにのせて温めることができます。
● 温めラックを使用しないときは、ラックボタンを押して、本体に収納してください。

電源コード

電源プラグ

ほこりよけカバー

使用しないとき、スロットにかぶせてほこりが入るのを防ぎます。

スロット(パン挿入部)

くず受け

パンくずがここにたまります。
● 使用するときは、必ずくず受けを取り付けてください。

キャンセルボタン (通電表示ランプ兼用)

パンの加熱を途中で終了するとき
に使用します。

解凍ボタン

温めなおしボタン

レバー

レバーを下げると、パンの加熱が始まります。
加熱中にレバーを上げて、パンの焼き目を見ることができます。

焼き目調整つまみ

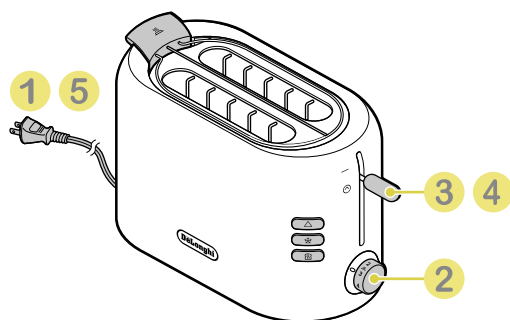
セットポイント

焼き目調整つまみの数値をセットポイントに
合わせて、パンの焼き加減を設定します。

初めて使うときは 一まずは空焼きしましょうー

初めてご使用になる前に、空焼きを行ってください。空焼きによって、新品特有のにおいを抜くことができます。

● スロットにパンを入れないでください。



ほこりよけカバーは、本体が十分に冷える
まで、かぶせないでください。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

2 焼き目調整つまみを「3」に合わせる

焼き目調整つまみを回してセットポイントに合わせます。
● 焼き目調整つまみは「3」より高くしないでください。

3 空焼きを始める

レバーを一番下まで下げます。レバーが下の位置で
止まると、加熱が始まります。

4 空焼き終了

空焼きが終わるとレバーが戻ります。

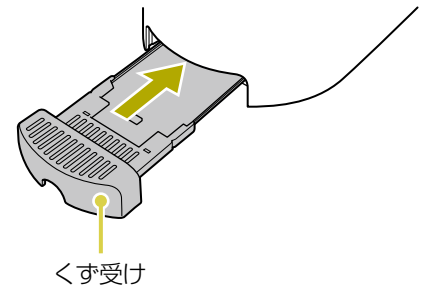
5 本機を使用しないときは

電源プラグをコンセントから抜いてください。

パンを焼く前の準備

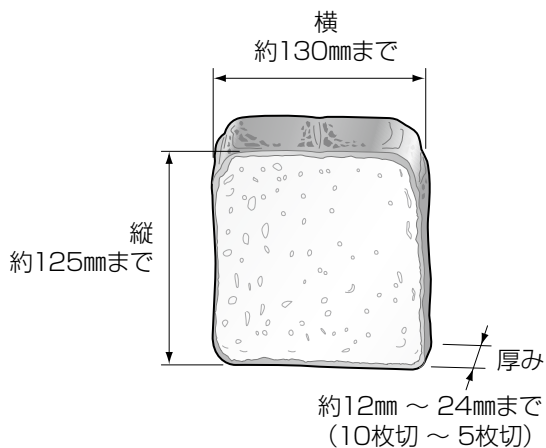
本機を安全にご使用いただくために、必ず次の準備をしてからパンを焼いてください。

- くず受けを必ず取り付けてください。
- くず受けは定期的にお手入れしてください。
お手入れの方法は、9ページをご参照ください。
- 「焼けるパンのサイズについて」に従って、スロットに入れることができるサイズのパンを用意してください。

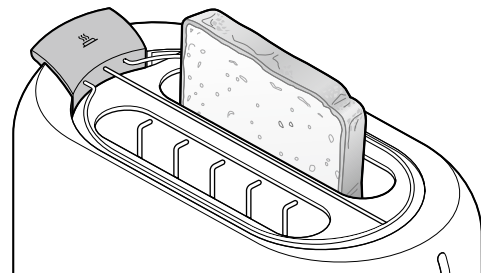


焼けるパンのサイズについて

以下のサイズよりも小さいパンをご使用ください。スロット内でパンが引っかかるおそれがあります。(火災の原因)



- パンの上部に焼きむらができるときは
パンの縦横の向きを入れ替えて、スロットに入れてみてください。パンの上部の焼きむらを防ぐことができます。

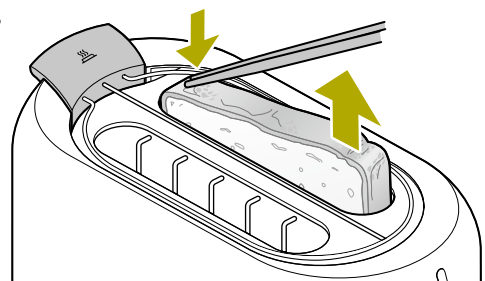


パンが引っかかったら

木製のはしなどで引っかかったところを押して、取り出してください。

注意

- 金属製のものは、絶対に使用しないでください。
感電する恐れがあります。
- 本体上部は熱くなりますので、パンを取り出すときはやけどに注意してください。



パンの焼きかた

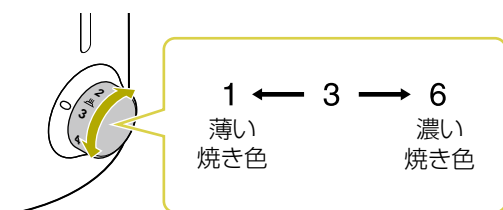
冷凍したパンを焼くときや、トーストしたパンを温めなおすときは、7ページを参照してください。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

2 パンの焼き加減を選ぶ

焼き目調整ツマミを回して、焼き加減を設定します。

焼き目調整ツマミの数値をセットポイントに合わせてください。



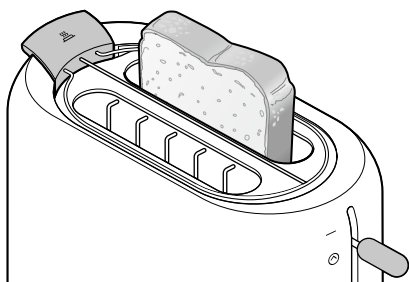
- 無段階で、細かく焼き加減が設定できます。お好みの焼き加減を見つけてください。

ヒント

次の場合は、焼き目調整ツマミの数値を「小さめ」に設定します。

- スロットを1つしか使わないとき
- 厚みが薄いパン
- 乾燥ぎみのパン
- 硬めのパン

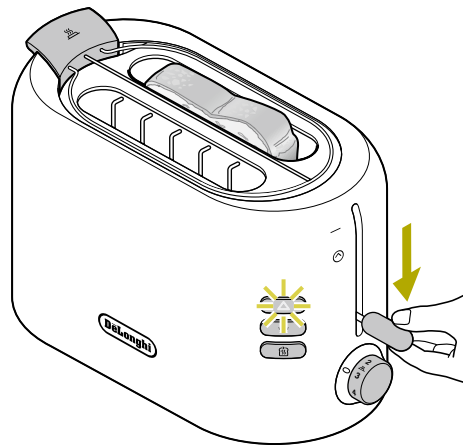
3 スロットにパンを入れる



スロットにパンを入れる場合は、温めラックは収納してください。

4 加熱を始める

レバーを一番下まで下げます。



レバーが下の位置で止まると、パンの加熱が始まります。

途中でパンの焼き色をチェックするときは

加熱中にレバーを上げて、パンの焼き色を確認できます。レバーを上げても、加熱は中断されません。

パンの加熱を続けるときは、レバーを離します。レバーが下の位置に戻り、再びパンが加熱されます。

パンの加熱をやめるときは



キャンセルボタンを押します。
加熱が停止して、パンが上がります。

5 パンの焼きあがり

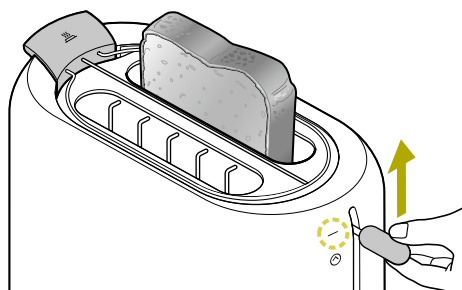
加熱が終わるとレバーが戻り、パンが上がります。

注意

本体上部は熱くなりますので、パンを取り出すときはやけどに注意してください。

● 小さなパンが取り出しづらいときは

レバーを「-」の位置まで上げると、取り出しやすくなります。



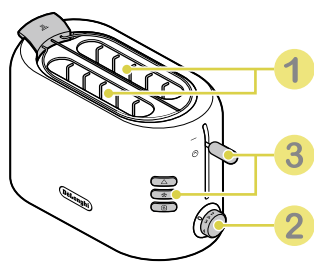
6 本機を使わないときは

電源プラグをコンセントから抜いてください。

ほこりよけカバーは、本体が十分に冷えるまで、かぶせないでください。

冷凍したパンを焼く

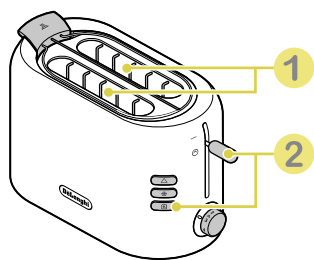
冷凍したパンを解凍しながら焼くことができます。この場合に好みの焼き色にするためには、トースト中に焼き色をチェックし、ちょうどよい焼き色になったところで加熱を止めることをおすすめします。



- 1 冷凍したパンを、スロットに入れます。
- 2 焼き目調整ツマミは、ふつうのパンを焼くときと同じ設定にします。
- 3 レバーを下げてパンの加熱を始めたなら、解凍ボタンを押します。
 - 通電表示ランプと解凍ボタンが点灯します。

トーストしたパンを温めなおす

一度トーストしたパンが冷めてしまったとき、パンを焦がさずに温めなおができます。



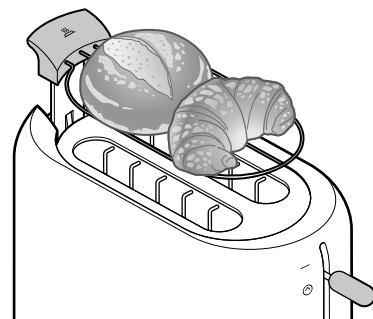
- 1 温めなおしたいパンを、スロットに入れます。
- 2 レバーを下げたら、温めなおしボタンを押します。
 - 通電表示ランプと温めなおしボタンが点灯します。
 - 焼き目調整ツマミの設定は不要です。温めなおしの温度に固定されて、約30秒間パンを温めます。

クロワッサンや丸いパンを温める

クロワッサンやロールパン、丸いパンなど、スロットに入らないパンは、温めラックを使って温めることができます。

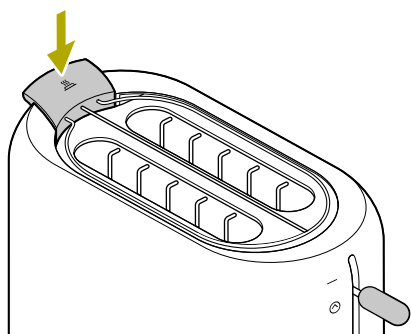
温めラックにのせるパンについて

- パンのサイズについて
温めラックからはみ出さない大きさを目安にしてください。
パンが温めラックよりも大きいと、温めむらができやすくなります。
- 厚みのあるパンを温める場合は半分にスライスすると、短時間で温まります。
- ラップやホイルなどで包まれたパンはのせないでください。
- ジャムやバターを塗ったものや、パン以外のものは調理しないでください。

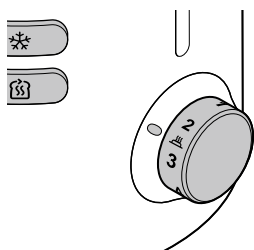


1 温めラックを上げる

ラックボタンを押して、温めラックを上げます。



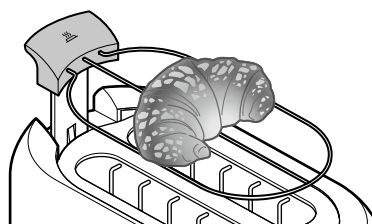
2 焼き目調整つまみを「☼」に合わせる



焼き目調整つまみの「☼」をセットポイントに合わせてください。

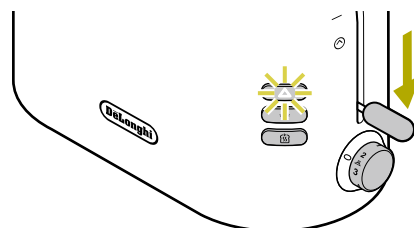
- 焼き目調整つまみの設定は、「☼」より高くしないでください。

3 温めラックにパンをのせる



4 加熱を始める

レバーを一番下まで下げます。



レバーが下の位置で止まると、パンの加熱が始まります。

ヒント

- パンを両面とも温めたいときは、途中でパンをひっくり返してください。

パンの加熱を途中でやめるときは



キャンセルボタンを押します。
加熱が停止して、レバーが上がります。

5 温め終了

加熱が終わるとレバーが戻ります。

6 温めラックを収納する

ラックボタンを押して、温めラックを収納してください。

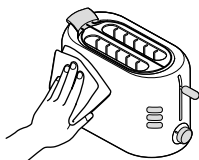
注意

- 本体上部は熱くなりますので、パンを取るときはやけどに注意してください。
- 温めラックは加熱中高温になります。直接触れないでください。

お手入れ

本体表面・ラックが汚れたら

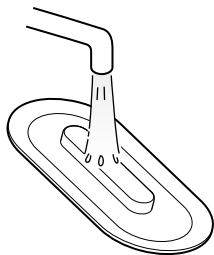
- 水を含ませ、固く絞った布で拭いてください。



- 水に浸けたり、水洗いしたりしないでください。
- クレンザーや台所食器用以外の洗剤、シンナーやベンジン、金たわしなどは、使用しないでください。

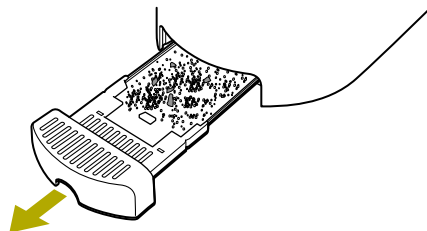
ほこりよけカバーのお手入れ

- 水洗いした後、完全に乾かしてください。



くず受けのお手入れ

くず受けにパンくずがたまると、煙が出たり、引火したりする恐れがあります。お手入れを必ず行ってください。



- 日常のお手入れ：
使用後は毎回、くず受けを取り外してパンくずを捨ててください。
- 定期的なお手入れ：
水洗いした後、完全に乾かしてから本体に取り付けてください。

本機を使用するときは、くず受けを必ず取り付けてください。

故障かな？

修理を依頼される前に、下記の点をお調べください。

状態	予想される原因	対処のしかた
レバーが下がらない	電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていますか？	電源プラグを差し込みなおしてください。
パンが上がってこない	パンが引っかかっていませんか？	厚みが24mm以内のパンを焼いてください。 引っかかったパンを取り出すには： 木製のはしなどで、引っかかったところを押しながら取り出してください。(→5ページ)
パンの焼き色が薄い	焼き目調整ツマミの設定が低すぎませんか？ 水分量の多いパン(湿ったパン)を焼いていませんか？	焼き目調整ツマミを高めに設定してください。
パンが焦げる	焼き目調整ツマミの設定が高すぎませんか？ 厚みの薄いパンや、硬めのパンを焼いていませんか？ パンを焼いた後、続けて次のパンを焼いていませんか？	焼き目調整ツマミを低めに設定してください。 続けてパンを焼く場合は、30秒以上たってから次のパンを焼くか、または、焼き目調整ツマミを低めに設定しなおしてください。
冷凍したパンに焼きむらができる	解凍ボタンを押さずにパンを焼いていませんか？	レバーを下げた後に、解凍ボタンを押してください。

仕様

型式番号	TTP220J
定格	電圧／周波数 交流 100V / 50/60Hz 消費電力 900W
外形寸法	幅 165mm × 奥行 315mm × 高さ 190mm
質量	1.5kg (ほこりよけカバーを含む)
材質	本体、ほこりよけカバー：ポリプロピレン樹脂 くす受け：スチール+ポリプロピレン樹脂
付属品	ほこりよけカバー

この製品は欧州 RoHS 指令に適合した製品です。

欧州RoHS指令とは、「電気・電子機器の特定有害物質の使用制限」を規定した欧州連合(EU)による指令です。

この製品は、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、六価クロム化合物、カドミウム及びその化合物、ポリブロモビフェニル(PBB)、ポリブロモジフェニルエーテル(PBDE)の含有率が、いずれも含有率基準値以下であり、環境に配慮して製造されました。



アフターサービス

- 1 使用中に異常（★）が生じた場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、10 ページの「故障かな？」で調べても正常に機能しない場合は、お求めの販売店または当社サービスセンター（下記参照）にご相談ください。

★以下のような場合には、点検および修理が必要です

- 使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- 本体に水などの液体をこぼした
- 電源コード、電源プラグが変形／破損している
- 本体に、強い衝撃（転倒・落下）を与えた
- 取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

- 2 万一故障した場合は、保証書に記載されている販売店に ①お求めの時期 ②製品名称と型式番号 ③故障の状況—を連絡のうえ、修理を依頼してください。

※ 宅配便等を利用して当社サービスセンター（下記参照）に直送される場合は、必ず故障の状況を記したメモを同封くださるようお願いいたします。

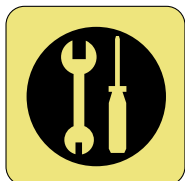
※ お送り先については、事前にお電話、あるいはホームページ（下記参照）にてご確認ください。

- 3 保証期間中（1 年）は、保証書に記載されているものについては無償で修理いたします。ただし、使用上の注意を無視しての故障や規格外に改造したものなどは、その限りではありません。また、保証期間を過ぎたものについては、有償で修理いたします。

- 4 補修用性能部品の保有期間について

当社では、このトースターの補修用性能部品について、最終輸入日を起点に 5 年間保有しております。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

- 5 まごころ点検について



長年ご使用のトースターは、点検をお勧めします。

保証期間（1 年）が過ぎて、少しでも気になる点がございましたら、安全のために専門技術者による点検（お預かり）をお勧めします。点検の依頼および料金等につきましては、当社サービスセンターまでお問い合わせください。

- 6 デロンギ再資源化システムについて



ご不用になった製品は、下記の要領に従い、当社サービスセンターまでお送りください。素材ごとに分別し、再資源化いたします。

● **送料について**：再資源化の費用は当社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。

● **梱包について**：製品の入っていた箱（元箱）に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアパッキンにくるんでください。

※ 修理や点検と区別するため、外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または当社サービスセンター（下記参照）までお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン サービスセンター（受付時間：土、日、祝日を除く毎日 9:30 ～ 18:00）

コールセンター

Tel.0120-804-280

Fax.045-450-3291

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9 安田倉庫（株）内4号ビル

ホームページでのお問い合わせ（URL）..... <http://support.delonghi.co.jp>